

春夏秋冬



武蔵野会ニュース No.174 令和元年7月15日

発行 社会福祉法人武蔵野会

本部 東京都八王子市旭町12-4.201 TEL042(631)6341

<http://www.musashinokai.jp/>

特集 平成30年度事業報告・監査報告



トピック

「日本社会に根深い女性の権利侵害」

先日、お二人の婦人保護施設の施設長さんとお会いしました。女性自立支援法（仮称）の成立を目指し、厚労省を巻き込んで「困難な問題を抱える女性へ支援のあり方に関する検討会」を立ち上げ、全国で啓発研修キャラバンを展開している組織の中心人物です。

お会いした理由は、当法人の提携法人である「生きにくさを抱える障害者等の支援者ネットワーク」と連携して助成金を申請し、共に活動をしていく中で、武蔵野会の研修にも生かしたいと思ったからです。お聞きした話の中に、婦人保護施設にはどんな方が入所されているかという話がありました。調査した28年3月の報告では、暴力被害97.9%、性暴力被害68.8%、居場所がない87.5%、知的障害77.1%、経済的な困難、精神疾病がそれぞれ75%、そして18才以上20未満が70.8%ということでした。

成人前の若い女性の中に、知的に障害がある方が77%であったこと、ほとんどが性暴力を含む暴力を受けていることは、二重三重の人権侵害を受けていたことになります。精神的な回復、身体的な回復のための適切な支援が必要なのは言うまでもありません。

婦人保護施設の数、人員配置、設備など未整備で課題が多いことが明白な中で、女性への国の施策はあまりにも貧困だと、お二人は話します。さらに、暴力・性暴力が身体や心に及ぼす影響は想像を絶します。回復までに安心安全が守られ、中長期に回復できる環境や場所が是非とも必要だと話しました。

日本は女性の権利については後進国です。人間として、男性として、福祉に働く者として、この問題を再認識して今後の活動に繋げていきたいと思いました。

社会福祉法人武蔵野会 理事長 高橋 信夫

平成30年度 社会福祉法人武蔵野会 事業報告・監査報告

福祉を取り巻く現状への対応

少子高齢時代を迎えるも、国の福祉関連予算は非常に厳しく、人材難による先が読めない状況が深まっている。見通しが立ちにくい中、国は法人合併の検討をはじめた。その中、全国経営協会は、メディアを活用した福祉PRなど福祉イメージを向上させる実践を強化している。また、発達障害者等の生きにくさを伴う人たちが顕在化して社会的な理解に結びついていないのが現状だが、LGBTに関して、いつまでも相談が受けられるよう当事者が担当窓口になる事業所が出てきた。法人の目標である一多様性への気つきと理解を促進するように各施設長に資料を示した。厳しい社会状況下、法人は第5期中期計画の初年度を迎え、理念運営のもと、内部統制、コンプライアンス強化を意識した。法人の意志決定機関である評議員会と、執行機関である理事会は、各々の責任を明確化し安定した法人運営を継続した。

30億円以上の収入がある法人が実施する会計監査人による監査は、予算から決算までの本格的監査を、会計担当者が直接面接し実施した。業務内容の点検、見直しを行い、次年度も充実した会計監査としたい。

地域公益活動は、中期計画の中で示し実施してきたが、これまでの継続と新しい取り組みを、法人と各事業所で始めた。具体的には、東京都が推進する精神病院長期入院障害者の地域生活移行についてネットワークに参加し、法人の短期入所を利用して退院に繋げ、入所施設で生活を始めることが出来た。また、中小企業家同友会多様性委員会に継続加入し、企業の障害者受入情報を得ることができた。

次世代福祉従事者の裾野拡大のため、地域の福祉セミナー講師や、大学での福祉講義を務めた。各事業所では、子ども食堂、高齢者サロン、高齢者宅への安否確認訪問、近隣中学校との連携、商店街との連携等々、共生社会に向けた取組みを拡大し、東京都社会福祉協議会や日本福祉大学提携法人が集まるシンポジウム等で報告した。

理事会、評議員会、運営会議、施設長会議実施状況

30年度理事会は5回、評議員会は2回実施した。6月の評議員会で決算の承認を受け31年3月に実施した評議員会では31年度の事業計画と予算計画の説明、執行理事による担当業務報告を行い、法人の計画、経営状況の理解を深めた。理事会では様々な案件の審議と、執行理事の担当業務報告を受け、法人運営全般の決定と執行に努めた。業務執行会議は隔月、法人運営会議は毎月実施した。施設長会議は、方針確認と徹底が主だったが、半日は施設運営に必要な視点で研修を実施した。

人材育成、採用、福利厚生

法人理念周知と理念サイクルを回すためのダイアログ研修を全職員対象に、20回にわたって実施した。理念研修は、年間計画を基に、各地区、各施設、法人単位で、支援介護の基本ブック、職員毎に作成したマイ支援ブックを活用して実施した。役職者を中心としたプロジェクトチームは、法人研修委員会として、新任・階層別・専門・ダイアログ研修等の運営、研修計画作成、ビデオ研修教材作成準備、eラーニングシステム準備等、計画的に運営した。新たに全施設で組織効果性サーベイ調査を実施した。今までも違った側面から法人、施設

ループホームで受入れた。他害行為があったケースについては、ご家族、家族会に説明を行った。その後は、受入れ施設の状況に合わせた適切な受入れを実施した。生きにくさを抱えた人たちの支援者等ネットワーク活動、触法障害者等の地域支援強化委員会の活動も継続した。

第5期中期計画

第5期中期計画初年度として、武蔵野会では、「多様性理解」「権利擁護」「包括的支援」「福祉教育」を柱に、制度の狭間で生きにくさを抱える人たちの理解に努め、適切な支援により地域での当たり前の生活に繋げた。世代交代は、法人での統一課題であり、施設長が、次世代の法人運営を担う管理職の育成にここ数年取り組んだ結果、例年よりも多くの昇任人事を進めることができた。次年度以降も継続して世代交代を進めていく。今後予定される施設建替費用資金計画の作成と適正執行には、練馬福祉園建て替えプロジェクトから基本設計の要望が出された。資金計画は、補助金や融資等を含め合わせるが、基本は施設収支差額が大きく、利用率向上、各地区の福祉ニーズを捉え、新事業を生み出す努力をする。

プロジェクト実施状況

プロジェクトは「規程全般」「コンプライアンス」「研修・防災」「建替資金計画」を執行理事に割り当てた。「規程見直し」と「コンプライアンス」は、全体で重複する部分や、形式、文言等の整理をした。コンプライアンスは、全職員へアンケートを実施し、課題分析をして改善の整理を終えた。

新規事業の建設と建替え資金計画

資金計画は、八王子地区の小さな愛育園きらきらのセンター化、法人初の重度障害者対応グループホーム「おおいずみまちはホーム」の開所、生活介護「シヨールステイ、グループホーム機能を持つ「リンクス柗田」の建設が終了し、資金計画による支払いが計画通り進んだ。

防災関係

各施設のBCPを法人全体で連携したBCPとなるよう、法人防災委員会を立ち上げた。日本福祉大学提携法人防災サミットで学んだ災害対応研修をもとに、委員会で準備し、法人初の地区単位での総合防災訓練を実施した。来年度予定の、全施設単位で行う総合防災訓練の予行ともなり、法人としてのBCP計画が明確になった。また、安否確認システムは、今後も定期訓練を実施し、緊急時に使えるシステムとしたい。

おさしの武蔵野

SDGsを 考える

SDGsとは2015年国連サミットで策定された2030年までの国際開発目標であり、持続可能（サステイナブル）な開発（デベロップメント）目標（ゴールズ）の略称です。4つの領域で17の目標（貧困、飢餓、保健、教育、ジェンダー、水、衛生、エネルギー、経済成長と雇用、インフラ、産業化・イノベーション、不平等、持続可能な都市、持続可能な消費と生産、気候変動、海洋資源、陸上資源、平和、実施手段）があり、現在、日本をはじめ世界各国が持続可能な社会の実現に向けた取り組みを行っています。この取り組みは大企業や政府だけでなく、全ての人を取り組むべき喫緊の課題といえます。当然、私たちも新しい市民規範として個人のみだけでなく福祉施設として達成に向けた具体的な活動が期待されています。

そこで、リアン文京ではSDGs 17目標ですぐにでも実行可能な目標を事業計画に位置付けました。「保健」「教育」「貧困」「水・衛生」「エネルギー」「経済成長と雇用」の問題に取り組んでいます。具体的には、「保健」は支援の質の向上、「教育」は学習支援、「貧困」は子ども食堂、「水・衛生」は省エネ活動の強化、「経済成長と雇用」では障害者雇用の推進、ひきこもりの中間就労や就労支援のディーセントワークへの取組みを事業計画に落とし込みました。また、この夏には地域と共催でこども向けのSDGs勉強会を開催する予定です。

SDGsのアジェンダ「誰一人取り残さない」「全ての人々の人権を実現」は、地域に暮らす一人一人に関心を寄せ、生きづらさを抱えた人々に寄り添い一緒に生きるという武蔵野会の理念そのものであり、今後予想される我が国の超高齢・少子化による人口減少の社会変容の中で、「不平等」を克服し、「インフラ・産業化・イノベーション」を推進し、福祉のまちづくりに寄与し、誰もが安心して暮らせる「持続可能な都市」の実現は、リアン文京のミッションである「絆社会の実現」と考えています。

リアン文京

施設長 野村 美奈

法人単位事業活動計算書

(自)平成30年 4月 1日 (至)平成31年 3月31日

第2号第1様式(第二十三条第四項関係)

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	介護保険事業収益	637,651,805	641,137,644	-3,485,839
	児童福祉事業収益	429,322,008	411,060,310	18,261,698
	就労支援事業収益	107,372,412	97,905,813	9,466,599
	障害福祉サービス等事業収益	7,072,213,813	6,864,230,282	207,983,531
	収益事業収益	0	2,010,000	-2,010,000
	経常経費寄附金収益	21,327,220	14,917,336	6,409,884
	その他の収益	12,143,092	12,479,664	-336,572
	サービス活動収益計(1)	8,280,030,350	8,043,741,049	236,289,301
	費用			
人件費	5,302,957,561	5,410,028,086	-107,070,525	
事業費	991,697,556	965,380,404	26,317,152	
事務費	1,287,893,430	1,243,987,160	43,906,270	
就労支援事業費用	117,272,976	114,462,130	2,810,846	
収益事業費用	0	797,604	-797,604	
利用者負担軽減額	172,227	311,103	-138,876	
減価償却費	407,169,639	397,660,656	9,508,983	
国庫補助金等特別積立金取崩額	-162,931,472	-162,093,165	-838,307	
徴収不能引当金繰入	228,923	0	228,923	
サービス活動費用計(2)	7,944,460,840	7,970,533,978	-26,073,138	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	335,569,510	73,207,071	262,362,439	
サービス活動外増減の部	収益			
	借入金利息補助金収益	771,838	776,400	-4,562
	受取利息配当金収益	252,697	360,095	-107,398
	その他のサービス活動外収益	60,537,168	74,757,729	-14,220,561
	サービス活動外収益計(4)	61,561,703	75,894,224	-14,332,521
	費用			
支払利息	3,495,300	3,371,237	124,063	
その他のサービス活動外費用	41,875,426	42,097,190	-221,764	
サービス活動外費用計(5)	45,370,726	45,468,427	-97,701	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	16,190,977	30,425,797	-14,234,820	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	351,760,487	103,632,868	248,127,619	
特別増減の部	収益			
	施設整備等補助金収益	49,303,750	12,744,000	36,559,750
	施設整備等寄附金収益	0	7,420,000	-7,420,000
	固定資産受贈額	0	475,200	-475,200
	固定資産売却益	0	1,758,377	-1,758,377
	その他の特別収益	0	297,828,391	-297,828,391
	特別収益計(8)	49,303,750	320,225,968	-270,922,218
	費用			
	固定資産売却損・処分損	393,597	12,248,114	-11,854,517
	国庫補助金等特別積立金取崩額(除)	-12	3,452,579	-3,452,591
国庫補助金等特別積立金積立額	57,189,750	19,111,001	38,078,749	
その他の特別損失	0	304,569,275	-304,569,275	
特別費用計(9)	57,583,335	339,380,969	-281,797,634	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	-8,279,585	-19,155,001	10,875,416	
繰越活動増減差額の部				
前期繰越活動増減差額(12)	6,306,349,411	6,452,798,570	-146,449,159	
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	6,649,830,313	6,537,276,437	112,553,876	
基本金取崩額(14)	0	7,875,000	-7,875,000	
その他の積立金取崩額(15)	1,000,000	62,197,974	-61,197,974	
その他の積立金積立額(16)	32,500,000	301,000,000	-268,500,000	
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	6,618,330,313	6,306,349,411	311,980,902	

法人単位貸借対照表

平成31年 3月31日現在

第3号第1様式(第二十七条第四項関係)

(単位:円)

	資産の部			負債の部			
	当年度末	前年度末	増減	当年度末	前年度末	増減	
流動資産	3,525,837,220	3,423,195,629	102,641,591	流動負債	819,075,781	846,646,412	-27,570,631
現金預金	2,620,877,854	2,541,237,888	79,639,966	事業未払金	325,970,518	323,890,013	2,080,505
事業未収金	787,538,608	772,018,699	15,519,909	1年以内返済予定設備資金借入金	33,262,364	14,881,364	18,381,000
未収金	387,734	0	387,734	1年以内返済予定リース債務	32,103,648	21,814,140	10,289,508
未収補助金	62,174,943	55,856,689	6,317,654	未払費用	64,887,439	66,560,808	-1,673,369
受取手形	0	74,378	-74,378	預り金	54,740,949	87,748,773	-33,007,824
貯蔵品	8,117,682	5,468,833	2,648,849	職員預り金	21,841,413	65,868,656	-44,027,243
立替金	10,971,201	3,900,345	7,070,856	前受金	60,000	60,000	0
前払金	20,250,102	20,848,888	-598,786	前受収益	988,000	1,027,300	-39,300
前払費用	15,553,258	17,166,587	-1,613,329	仮受金	832,533	2,000	830,533
仮払金	195,361	6,623,322	-6,427,961	賞与引当金	284,388,917	264,793,358	19,595,559
徴収不能引当金	-228,923	0	-228,923	固定負債	1,468,208,210	1,246,768,346	221,439,864
固定資産	10,886,354,017	10,558,554,707	327,799,310	設備資金借入金	966,853,332	767,494,696	199,358,636
基本財産	7,860,850,475	7,959,067,266	-98,216,791	リース債務	51,393,870	45,273,646	6,120,224
土地	568,242,917	568,242,917	0	退職給付引当金	449,961,008	434,000,004	15,961,004
建物	7,292,607,558	7,390,824,349	-98,216,791	負債の部合計	2,287,283,991	2,093,414,758	193,869,233
その他の固定資産	3,025,503,542	2,599,487,441	426,016,101				
建物	69,286,478	69,286,478	0				
構築物	143,156,795	152,077,661	-8,920,866	純資産の部			
構築物	292,763,965	269,350,591	23,413,374	基本金	643,522,735	643,522,735	0
機械及び装置	2,358,862	2,638,051	-279,189	基本金	643,522,735	643,522,735	0
車両運搬具	19,886,370	28,745,773	-8,859,403	国庫補助金等特別積立金	3,580,438,404	3,687,347,638	-106,909,234
器具及び備品	219,654,063	275,000,069	-55,346,006	国庫補助金等特別積立金	3,580,438,404	3,687,347,638	-106,909,234
建設仮勘定	431,148,103	36,159,445	394,988,658	その他の積立金	1,282,615,794	1,251,115,794	31,500,000
有形リース資産	74,092,122	54,788,422	19,303,700	措置施設積立金	7,246,858	7,246,858	0
権利	1,052,600	1,063,210	-10,610	施設整備積立金	1,075,447,244	1,046,947,244	28,500,000
ソフトウェア	3,258,170	3,886,138	-627,968	人件費積立金	194,101,692	191,101,692	3,000,000
無形リース資産	9,405,396	12,299,364	-2,893,968	工賃変動積立金	3,970,000	3,970,000	0
退職給付引当資産	449,961,008	434,000,004	15,961,004	就労設備整備積立金	1,850,000	1,850,000	0
措置施設特定積立資産	65,923,858	34,923,858	31,000,000	次期繰越活動増減差額	6,618,330,313	6,306,349,411	311,980,902
施設整備積立資産	1,047,447,244	1,046,947,244	500,000	次期繰越活動増減差額(うち当期活動増減差額)	6,618,330,313	6,306,349,411	311,980,902
人件費積立資産	163,424,692	163,424,692	0				
工賃変動積立資産	3,970,000	3,970,000	0				
就労支援設備等整備積立資産	1,850,000	1,850,000	0				
差入保証金	18,185,486	8,642,486	9,543,000	純資産の部合計	12,124,907,246	11,888,335,578	236,571,668
長期前払費用	8,678,330	433,955	8,244,375	負債及び純資産の部合計	14,412,191,237	13,981,750,336	430,440,901
資産の部合計	14,412,191,237	13,981,750,336	430,440,901				

武蔵野会 セミナー

小雨が降る6月29日(土)、令和元年度の武蔵野会セミナーを霞が関イイノホールで開催致しました。NPO法人日本障害者協議会(JD)と東京都社会福祉協議会の後援を頂き、武蔵野会は平成21年度から、地域社会における福祉基盤の構築に向けて、「人権」をテーマとした様々な講演やシンポジウムを開催してきました。令和元年となる今年には「優生思想と人権擁護」の内なる優生思想と多様性というテーマを掲げ、多様性を抱える現代において、福祉や医療、教育などの実践を通じ、誰もが内在しているのではと言われる内なる優生思想にどう向き合うべきか学びを深める機会となりました。

会場には400人以上の参加者が詰めかけ、NPO法人日本障害者協議会(JD)代表、藤井克徳氏の基調講演を皮切りに、赤平守氏(日本障害者協議会理事)、中村文子氏(NPO法人東京都自閉症協会副理事長)、横山晃久氏(自立生活センターHANDS 世田谷理事長)、坂

本洋子氏(里親広場ほいっぶグループ代表)の4氏によるシンポジウムに耳を傾けました。



日本障害者協議会代表
藤井 克徳氏



日本障害者協議会理事
赤平 守氏



自立生活センターHANDS 世田谷理事長
横山 晃久氏



自閉症協会副理事長
中村 文子氏



里親広場ほいっぶグループ代表
坂本 洋子氏

途中、東京優生保護法訴訟弁護団団長を務める関哉直人氏(五百蔵洋一法律事務所・第二東京弁護士会所属)から5月28日に出された仙台地方裁判所の判決に対する緊急報告がトピックとして紹介されるなど、最新の見聞にも触れる機会となりました。



弁護士
関哉 直人氏

セミナー閉会にあたっては藤井克徳氏の「最も遠いところにいる方たちと話をしていきたい」という言葉が非常に印象的でした。(セミナーにおける各位の論点は、紙面の都合でご紹介できませんが、関心を持たれた方はぜひ高者をご一読ください)

支援実践集表彰式

八王子地区

武蔵野会セミナーに先立ち、昨年度寄稿された支援実践集から4つの事業所がその功績を称えられ高橋信夫理事長から表彰を受けました。支援実践集は、各事業所職員が、自らの支援を振り返り、その実践を広く伝えることにより、法人理念の実践をより一層深めるとともに、職員相互がより高めへと成長していく実践報告でもあります。よって、表彰の基準は「法人理

施設あれや これや

八王子市心身障害者福祉センター
5月下旬から2週間「障害者施設作品展示即売会」を開催しました。本年度も多くの皆様にご来場いただきました。希望の里の朝採り野菜、八王子福祉作業所の焼き菓子は大好評で、多くのお客様が購入してくださいました。

白鳥福祉館
今年度の一泊旅行を5月と6月の2回に分け千葉県鴨川に行きました。宿はホテル三日月に泊まり、夜はカラオケ大会で盛り上がり、2日目は鴨川シーワールドでシャチのショー等を見て楽しみました。

第2 大島恵の園
地域の盆踊りが始まりました。波浮港地区を皮切りに、差木地区、クダツチ地区と週末に行われます。利用者の皆さんも、全員が出かけ、夏の一日を楽しみました。

東堀切くすのき園
ダンスやアート、季節行事、一日外出にお楽しみ給食など、利用者個々の自由・選択・決断を重んじながらきめ細やかに支援するのが園のモットー。ダイバーシティ推進の一環で活動室にはポッチャの正式コート常設、葛飾区ポッチャ協会との連



最優秀賞受賞のリアン文京と優秀賞受賞の皆さん

念に立脚している」のは無論、「先進性や斬新さ」といった一段高い支援の質が求められています。今回の最優秀賞は、「ポッチャを通じた地域共生社会のまちづくり」(リアン文京)が受賞。優秀賞として「ここが俺の居場所」(矯正保護施設退所者の地域定着支援)、「八王子福祉作業所」(地域とのつながりを大切に「社会参加」について考える)、「鳥山福祉作業所」(「重度高齢化する施設に求められる支援とは」Aさんの支援を通して分かったこと・見えてきたこと)、「大島恵の園」がそれぞれ受賞し、選者の春日完和監事と山田貴美法人本部長が見守る中、理事長から各位に表彰状が授与されました。

基幹相談支援センター 「ぽーとからすやま」 オープン

鳥山福祉作業所

昨年12月に世田谷区から公募型プロポーザルの選定を受けた後、3カ月間の立ち上げ準備とOJTを経て、4月1日に開所しました。開所間もなくは余裕のない日々が続きましたが、今はようやく落ち着きました。「ぽーとからすやま」の事業種別は「地域生活支援事業」で、京王線荻花公園駅から徒歩2分にある一軒家で運営しています。業務は、基本相談支援(電話や訪問同行など)のほか、エリア自立支援協議会の事務局運営、障害者の権利擁護など広範囲にわたります。なかでも、精神科病院長期入院患者の地域移行推進や8050世帯への支援を通して地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み、新しいカタチのふくしを追い求めています。最近では、次期ノーマライゼーションプラン障害福祉計画策定に向けた事業所の意見取りまとめも新たな業務に加わりました。



お気軽にご相談下さい

新事業所 「リンクス 柵田」開所

八王子地区

八王子市柵田町に地区7番目の事業所「リンクス 柵田」が誕生しました。事業種別は日中生活介護(定員20名)です。当初5月開所予定で準備を行っていましたが、工期の遅れに伴い一時的に八王子生活実習所内へ間借りしていた状態でした。



地域の拠点を目指します

7月1日の開所初日は8人の利用者でスタートとなりましたが、今後職員採用を進め利用者の受け入れを順次拡大していく予定です。建物2階には、共同生活援助4床と短期入所2床を計画していますが、しつかりとした受け入れ準備が整ってから開所の運びとなっています。広びと、きれいなリンクス柵田で新しい支援が始まります。八王子地区でバックアップしていきます。

携も始めました。

大泉町福祉園

バイキング昼食会を行いました。チーフイングリッシュや冷蔵ケースを取りそろえ、グラタンやハンバーグなど時間がたっても暖かく、ケーキやプリンは冷たく食べられます。オムライス・クリスピーチキンなど10品から選ぶことができ、皆さんは大満足でした。

光が丘福祉園

今年も園芸を始めています。きゅうり、トマト、なす、ゴーヤを植えました。みんなで水やりなどのお世話をしています。今年も、日照時間が短く、成長が遅いようです。梅雨明けのお日様に期待したいと思います。

北町福祉作業所

7月の土曜プログラムきらきからサタデーは「北町シネマ」と題して、イベント用音響機材と暗幕を取り付けた部屋の壁一面を使って、プロジェクトで迫力ある映画の上映やカラオケで、利用者OBをお呼びして利用者と皆で楽しみます。

すつてぷ

すつてぷのオープンスペースには、利用者が自由に利用できるパソコンが、3台設置されています。仕事帰りに寄り道をして、ユーチューブを観たり、好きなものの画像をコレクションしたりと、夕方以降は順番待ちが賑わっています。

お知らせコーナー

法人職員永年勤続者表彰式



6月20日、京王プラザ八王子において法人職員永年勤続者表彰式が執り行われました。本年は、50名近い表彰者が一堂に会し、理事長から一人一人に表彰状と記念品が贈呈され、これまでの功績に労いの言葉がかけられました。表彰者を代表し、矢口俊夫職員から謝辞として仲間への感謝と今後の決意が述べられました。

表彰者の皆さん（敬称略）

7月

- 8日(月) 故人を偲ぶ会 (西水元あやめ園)
- 27日(土) 花火大会 (八王子地区)
- 27日(土) 納涼会 (西水元あやめ園)

8月

- 1日(木) 第59回お花茶屋ふるさと祭り (葛飾地区)
- 3日(土)

9月

- 6日(金) 宿泊旅行 (東堀切くすのき園)
- 14日(土)
- 15日(日) 敬老会 (西水元あやめ園)
- 22日(日)
- 27日(土) 宿泊旅行 (東堀切くすのき園)
- 29日(日) わたぼうし祭 (八王子生活実習所)

令和元年度永年勤続表彰者

勤続30年

- 矢口 俊夫 (武蔵野児童学園)
- 栗田 範明 (さくら学園)

勤続20年

- 板鼻 克典 (練馬福祉園)
- 近藤 祐介 (同)
- 田部 季之 (同)
- 宗 信介 (大島恵の園)
- 三橋絵美子 (同)
- 竹矢 牧恵 (東堀切くすのき園)
- 白田 正明 (きね川福祉作業所)
- 田中ひろみ (世田谷福祉作業所)
- 菅谷恵美子 (八王子福祉作業所)
- 大関 智 (大泉町福祉園)
- 渡部 陸 (リアン文京)
- 伊藤 啓子 (さくら学園)



勤続10年

- 土屋 春香 (武蔵野児童学園)
- 伊藤 崇史 (さくら学園)
- 白井 聡 (同)
- 福見 喬司 (すぎな愛育園)
- 吉原 雄子 (同)
- 渡邊あずさ (同)
- 江崎 誠 (練馬福祉園)
- 谷内 望 (同)
- 高橋久実子 (大島恵の園)
- 谷口 昌央 (第2大島恵の園)
- 菊地 美江 (同)
- 安彦 大輔 (白鳥福祉館)
- 武居ゆかり (同)
- 田中 敏治 (同)
- 木塚 昂志 (西水元あやめ園)
- 渡邊 淳一 (同)
- 吉岡 芳男 (同)
- 肥留川深雪 (東堀木くすのき園)
- 村上 貴子 (同)
- 吉田 弦彦 (同)
- 向口 文昭 (駒沢生活実習所)
- 熊谷 政樹 (北町福祉作業所)
- 稲留 剛 (きね川福祉作業所)
- 林 豊貴 (同)
- 館花 亜希 (九品仏生活実習所)
- 古軸 利花 (同)
- 金野 瑞恵 (八王子生活実習所)
- 草野 涼子 (同)
- 吉村 望美 (同)
- 志賀なほこ (八王子福祉作業所)
- 片桐奈美子 (烏山福祉作業所)
- 高山 力 (小平福祉園)
- 田代 恵理 (同)
- 嵯峨 由貴 (光が丘福祉園)
- 上野 良子 (リアン文京)

シヨーカーズ

「ガールーン導入」

法人では各事業所が都内だけでなく、伊豆大島や御殿場にも点在しているため、委員会やプロジェクト等で各担当者が集まることに課題を抱えていました。メンバーの情報共有とタイムリーな意見交換のためにこれまで「サイボーズ」を使っていましたが、さらなる利便性を追求した結果、新たなグループウェアとして「ガールーン」を導入することとなりました。メンバー間のスケジュール管理や、スレッド形式のメッセージ交換など、新しい機能を十分に使いこなして業務を推進していきます。

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する27施設と9つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実に、施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町1-19-3

電話・FAX 042-626-9772